

# 会 議 録

## かわにし事業ディスカッション2014（第2回）

開催日時	平成26年9月28日（日） 午後1時から午後2時30分
開催場所	川西市役所 7階 大会議室
内容	交通安全啓発事業の質疑応答・討論
出席者	コーディネーター 清水 万由子
	メンバー （公募市民） 大塚 千恵子 岡田 忠純 小牧 満也 杉浦 一郎 藤本 美穂
	オブザーバー 石田行政経営室長
	市職員 西田まちづくり推進室長兼道路管理課長 川部道路管理課主幹 的場道路管理課主査
事務局	総合政策部 行政経営室 経営改革課 （内線：2110、2112）

## 会議経過

発言者	発言内容等
<p>コーディネーター</p> <p>市職員</p>	<p>交通安全啓発事業を始めたいと思います。7月に勉強会をして、そのときに、担当課から説明をいただきました。2カ月ほど空いてしまいましたので、おさらいという意味も込めてもう一度、この事業において何が課題になっているのか、あと、最終的には交通事故を減らしたいと、そのための安全啓発をどうしたらいいかということだと思いますので、現状と課題について、簡単に説明いただければと思います。</p> <p>勉強会のときに、皆さんから話をいただき、現状に至るまでに、まだ手をつけていない分野がございますので、その分について課題というところを挙げているという状況になっています。前回に幼児教育、小学校前、小学生、それから高齢者等については、現状の中で話をさしていただいています。高校生においても、市内3校のうち、1校にあたっては現地指導、あと2校については時間の関係でまだできていません。一番の課題は中学生になります。中学生は通学時に自転車で行くということではなく、徒歩で行くという状況にはあります。家に帰ってからの時間から自転車で行動することが非常に多いというところは現状としてわかっていました。そこについての指導が前回の話の中でも出ていませんでしたけども、必要であるのではないかと考えています。</p> <p>また、このような指導にあたって、指導員3名いますけども、現状の人数でいけるのかどうか、今後、どうした形で進めていくのがいいのかというところにまた課題があるというように考えています。</p>
<p>コーディネーター</p> <p>市職員</p>	<p>勉強会のときの資料をお持ちの方は1枚めくっていただくと、横向きの概要があったと思います。交通安全というのは誰もがかわるというか、交通事故のリスクというのがありますので、幼児から高齢者に至るまでさまざまな年代の方に啓発のアプローチをする。必要であるということで、幼児のほうはかなり親に熱心にされている。今、中学生のところ少し薄くなっていると、どうしたものかというところを説明いただきました。</p> <p>それから、もう1つの課題として交通安全指導員の体制が今のままで十分かどうかということでもよろしいですか。資料を用意していただいていると聞いていたのですが、説明があればお願いします。</p> <p>交通安全啓発に携わる組織としまして、様々な組織がかかわってきています。まず、最初に挙げさせていただくのは、警察で、交通ルールを守ると、道路交通法を守るところがまず機関として出てくる。それをそのように守らせるかということ直接的な指導とて、取り締まりであったり、規制を強化するであったりというところがあると思います。それに上乘せした形で、交通安全関係団体、それにかかわっていただける団体として学校とか、鉄道事業者であったり、バス事業者であったり、それから自家用車協会というのもあります。また、川西警察が事務局として、川西地域交通安全推進協議会があります。あと、猪名川町も含めて交通安全協会があります。このような組織がある中で、川西市としても取り組んでいることを見ていただきたい資料としてお渡しさせていただきました。</p>
<p>コーディネーター</p> <p>市職員</p>	<p>警察とか、それぞれのいろんな団体がある中で、役割分担をしているということでもよろしいですか。</p> <p>警察としてできないところがありますので、役割分担ということになるとと思います。そのほかの部分については、連携をした上で、警察とも連携しますけど、一緒になってやっていくと、同じようなレベルでの組織になります。川西市であったり、交通安全関係団体であったり、交通安全協会であったり、警察だけは大きな権限を持った組織であ</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター	<p>りますので、違った部分でのかかわりになるとは思いますけれども、そのような位置づけになります。</p>
市職員	<p>役割分担、同じレベルでと今おっしゃっていただきましたけれども、団体が交通安全啓発に取り組んでいると、その役割分担のところには何か課題をお持ちだという理解でよろしいですか。それともこれは基礎知識的にお出しいただいたものと思えばいいですか。</p>
市職員	<p>市のほうで、交通安全啓発事業を行っていることは、勉強会の中でも述べさせていただきました。ほかの関係団体でも同じように行っているところが勉強会の中で抜けていましたので、補足説明的な資料として出しました。</p>
コーディネーター	<p>道路管理課のほうからこの2点を考えたいというところですけども、皆さんのほうからももう少しちょっとこういう点はどうだとか、これって一体何ですかというような話も含めてご意見いただければと思います。前回の勉強会のときに、交通安全啓発事業というところが、人件費の割合が非常に多いと、人が啓発を行うということなので、マンパワーの部分をちょっと増やす必要があるのではないかとこの考えの可能性もお持ちだということなんです。</p>
市職員	<p>前回にもご説明しましたように、嘱託職員が1名、臨時職員が2名の体制で、中学生の啓発に力を注ごうとしたときに、要員については十分ではないと考えており、道路管理課の職員で手助けしています。また、川西警察、各種団体と同時に啓発を行っている場合において、増員を求めていくというような格好で出て行く回数をふやすという形になりますので、どうしてもその辺の人間のマンパワーが必要になってくるというふうに考えています。</p>
コーディネーター	<p>啓発事業に出て行く、その回数をふやしていきたいということです。どうでしょうか、質問でも結構です。</p>
メンバー	<p>ちょうど3年前、私が高校生の時は、PTAが結構見回りをしていました。高校生は自転車通学が普通なので、中学とかとなると、やっぱり自転車を使うのはどちらかと言うと課外時間のほうが多いです。そういうところで、PTAに夜とか、休日とかも何か見回りみたいなのを願いますというのは結構難しいでしょうか。</p>
市職員	<p>地域の方にかかわっていただく部分というのはかなり大きな部分で、かなりの効果が発揮できるのではないかとこのように私どものほうとしては認識しています。ただ、地域の方々に負担をお掛けすることになるので、その辺をどういうふうに誘導していくのかというのは、地域分権の制度で、地域の方でやっていただける分については、市が取り組んできた内容について、ある程度地域の方にお任せしようじゃないかというようなそういう動きもあります。そういう大きな流れの中で、こういう部分についてもやっていただく部分かなというふうには認識しています。ただ、今のうちの道路管理課の事業の中で言いますと、直接的に今現状としては、地域の方に直接お願いをしていっているところはないです。地域活動が盛んな所については、自発的にやっていただいていると聞いています。方向的にはやっぱり地域の方で活動を担っていただきたいという思いは大きく持っています。</p>
コーディネーター	<p>ちょっと思い出すのに時間がかかるというところもあるかもしれませんが、最終的なこの事業の目標というものはやっぱり交通事故を減らすということです。発生をゼロにはならないかもしれないですけども、発生件数をできるだけ減らす。その割合を減らしていくということだと思います。これまでやってこられた啓発事業がどういうことをやって、その結果、事故は減ってきているのか、そうではないのかというあたりは、このような状況でしようかというような、前もお話しいただいたかもしれませんが、</p>
市職員	<p>実体的に数字というのは、難しい部分があり、傾向的に言いますと、交通事故に遭わ</p>

発言者	発言内容等
オブザーバー	<p>れる方の高齢者に占める割合というのは、増えてきています。ただ、これまでの活動の中で、交通事故自体についての数は減少しています。従来から説明しているように、交通安全啓発事業が私どものほうでの思いとして、徐々にではあっても、ちょっと実を結んでいるという自負はあります。その中で、事故の件数が減っているのではないかと思います、社会的な傾向の中で、高齢者が増えているということで、課題として説明させていただいた高齢者、それから自転車の利用者が増えてきています。</p> <p>あと、携帯電話の使用というのも結構、スマートフォンでメールして歩きながら、自転車に乗りながら、そういう新しい傾向にどう取り組むかというのもあるのかなというふうには思います。数字的には、交通事故の死者については減少していますが、その中で、そういうような傾向を捉えた中で、そういうような方々の事故については増えてきているというような状況になります。</p> <p>担当のほうから数字の話をしていただきたいので、できたら既に取り組んでいる高齢者、子ども、それと自転車の過去からのトレードと言いますか、推移、そこをちょっと手持ちで資料をお持ちであれば委員の皆さんに見ていただいた上で、議論したほうがわかりやすいというふうに思います。できたらちょっとコピーをお願いしたいと思います。</p>
コーディネーター メンバー	<p>コピーをしている間にお願いします。</p> <p>我々が考えないといけないのは、交通安全という意味で、今いただいた概要というのが非常にある意味、役割を明確にしているというふうに拝見しています。その中で、川西市がこの主に携わっている、もちろん交通安全教室というのがあるのですが、どちらかと私は市の場合、ハード面の歩道整備、市道整備・維持管理、それからカーブミラーになると思います。ソフト面は川西警察が主になるのではないかとこのように思っています。両方全体の中で交通安全ということになれば、自転車、もちろん高齢者の運転も去ることながら、成人の運転がいかにか最近未熟なのかという、そこらが大きな事故の原因、要因になっていると思います。日々思うのは、自動車で方向指示器を出さない、もしくは右折が左折を前に割り込むとか、今日もここへ来る途中でありましたが、2車線で1車線の端に自転車が走っており、追い越して方向指示器を出さなくて、私の前を急に入ってきました。もうちょっとしていたら接触が追突するような運転の仕方になります。日常乗っている成人の運転マナーというのが非常に悪いんですけど、教育するというのは、免許更新のときのスライドぐらいで、日々、「はっと」というのはやっぱり一番多いのは車になります。自転車も確かに危ないなと思いますけど、それはこちらが準備すれば出会い頭でない限り大丈夫ですが、車の運転をしている人の教育という意味では、川西市の設備でもないし、どちらかと言うと、社会全体のソフトの徹底です。そういうふうにとまた来る途中に感じ、いただいた資料での役割分担を拝見していても、どちらかと言うと、川西市が行っていることによる瑕疵によって事故になっているというよりは、1人1人の運転手のマナーが悪いのが事故の原因のように私は思います。</p>
コーディネーター 市職員	<p>交通安全啓発事業としてはソフト事業ということです。ただ、川西市として、ハード整備の面もかなりやっている。成人のところも出ましたけれども、現状としては高齢者、それから高校生、小学生と幼児というところは、働きかけをされている。中学生にもしたいということなのですが、成人のところはどのように考えておられますか。</p> <p>なかなか市役所のほうでの指導というのは難しいです。春と秋に交通安全週間があり、そのときに、川西市安全協会、交通団体、関係団体等が寄りまして、市役所近辺、能勢口近辺を回り、団体等で意識の向上ということでさせていただいています。市役所単独でそれをできるかと言うと、法的な権限の部分もあるので、少し無理があるとは思っています。</p>

発言者	発言内容等
メンバー	<p>自治会の回覧で「犬に噛まれたので、犬の散歩を注意してください」とか、「空き巣が入った」とか、でも、肝心な交通事故について、本当に免許を取るときは一生懸命勉強をして覚えても、日々走り出すと、運転する人はおらが天下で自由に走っているような感じで、ルール無視が目には余ります。その辺は、例えば市から自治会に家庭配布する中で、「もう一遍、マナーを見直してください」というような啓発もあってもいいかなと、もうそれぐらいしか反対に言うとなんじゃないかと、またはテレビ、コマーシャルとかいうぐらいしか、一般の人に目に止めていただくといいと思います。</p>
市職員	<p>市役所でやっているのは、ホームページに掲載するとか、春、秋の交通安全週間のときに記事にさせていただくような状況にはなっています。自治会宛てに同じような内容を送付するとかいうことについては、可能だと思っています。</p>
メンバー	<p>交通安全啓発の動画配信とか、検討されたことというのは、過去あるのでしょうか。</p>
市職員	<p>動画配信はしていません。</p>
メンバー	<p>何の事業だかちょっと忘れましたが、伊丹市で最近、割と新たに何かするというときに動画でアップをされて、「各関係者がこういうのをアップしたので見てください」みたいなのをしています。割と啓発というか、周知されているようなことをされていて、「おもしろいな」と思い、交通安全啓発に関しては、特にどの年代とか、どういう人に対してどういうことを発信するかということによって何を使うかとか、紙がいいのか、実際に目で見てもらったほうがいいのかとか、あるいは携帯とか、スマホとかがいいのかという、手段が違っていいじゃないかなというふうに思います。特に、今回、中学生ということなので、ほとんどスマホを持たれているような感じなので、そういう動画とかがあれば、交通安全指導員の方も1人でやったらよくなりますんで、検討されてはどうかというふうに思いました。</p>
メンバー	<p>交通安全は日々の生活の中で、すべての人に関係するところで、日常でもそうですし、ちょっと外に観光に行こうという非日常であっても必要なところだと思います。意識化というのも、日々、自分が被害者にも加害者にもなる可能性があるという危機感を持つことだとは思いますが、なかなか日常生活の中で、2つ目に挙げている「交通安全指導員が十分か、増やしていこう」となると、じゃあ、そんじょそこらに必要なになってしまう気がします。先ほど提案いただいたことと、ちょっと近くはなりますが、地域のスタッフであったり、ボランティアであったり、ちょっと交通はすべての人にかかわるものなので、啓発の機会をふやしていく「交通安全指導員」という立場ではなく、それぞれが意識化できるような、例えば、先ほどちょっと挙げてくださったYouTube動画配信であったら、若い世代が見ます。例えば、日々の生活の中ということ言うならば、中高生のライフスタイル、部活動の中であったり、あと高校生など文化祭とか、イベントごと、コンサートに行ったり、あと講演会とか、若い人たちがそういうことにちょっと参加することがあると思いますので、そういうものとの連携を取るなど、もしかしたら人が集まる場所でそういうイベントに参加されたりとかはしているかもしれないですけど、生活の範囲内でライフスタイルにあった人たちとやっぱり連携を取らないと、事故を減らしていくというのは、ちょっと難しいというのはちょっと考えていました。</p>
メンバー	<p>交通安全啓発という部分で、先日、伊丹のほうでやっていた「交通安全フェスティバル」に、遊びに行きました。それは警察署、市役所、交通安全協会とか、プラス教習所が連携をしていました。そういうところは基本あまり中学生とかなかなか来られないですけども、上手に中学校の吹奏楽部の演奏をステージで入れたりとか、それを見に来ている同級生がいました。その中で、教習で使われている自動車のドライブシミュレータ</p>

発言者	発言内容等
市職員	<p>ーを使って中学生と小学生が体験して、車に乗っている人から自分たちが車の影から飛び出してきたらどういうふうに見えているのかシミュレーションをしていました。それは各中学校に回ってやるというのは人材も必要になり、川西は教習所がなく猪名川町にあるので、近隣の市町村と協力して行く。あと、川西まつりのような人が集まる場所に、上手に中学生を呼び込むこともしないと思います。そういった中で、広い形での交通安全啓発というのと一緒に、ドライブシミュレーターも多分免許を取るときはしていますが、なかなか免許取って何十年経ったときに、そういったシミュレーションをすることもないので、私も見ていて「あっ、そうそう、こういうとき、こういうところから飛び出してくる」と教習所で習ったと思うところがあったので、そういう姿を見ることで、大人の交通安全に対する意識が高まると思いました。</p> <p>毎年、川西市でもそのようなことは行っています。今年はアステ1階で催しを行いました。そのときにシミュレーターも警察のほうからお借りして、県警本部の本部部隊にも人を集めるという意味で行いました。それから中学生の演奏、それから私どもが参加しての劇をさせていただきました。白バイ等も子どもの興味のあるものを持ち込み、皆さんに啓発グッズをお渡ししました。</p>
コーディネーター 市職員	<p>反応はどうでしたか。</p> <p>今年は、県警の音楽隊が来るということで、普段より多かったと思います。通常は屋外でやっているのですが、初めて室内でやりましたので、買いものに来られた方、それから先ほどお話がありましたように、父兄の方も参加され、高齢者から幼児まで来ていただくというような感じで実施をいたしましたので、成果はあったと思います。</p>
メンバー	<p>私には中学生の娘がいますが、中学生のときはちょっと反抗期になったりとか、ちょっと集まりごとに行くことに対してちょっと斜に構えたりというところがあります。なかなか大人の思いどおりにならないし、性質があるというのがあり、彼らの興味のあるものを啓発という意味で覚えるだけでもいいですから、こんな利用、興味を持ってもらうという意味で、何か関心を持ってもらうキャラクターとか、きんたくんがいますが、きんたくんはちょっと中学生に今どれぐらい人気があるかわかりませんが、例えば、京都の市営地下鉄では、メルヘンな感じの少女漫画のようなキャラクターが出て、そういうのも入口というのが変わってくるような気がします。ちょっと今までとは違った視点というの必要なんじゃないかというふうに思います。</p>
メンバー	<p>先ほど、中学生が反抗期ということで、確かにそうだと。それに加えて、今の中学生、高校生は結構多忙で、ただ、世代的に私ぐらいのときからやはり漫画を読む世代が増えているような気はします。文章になるとなかなか読むのは抵抗がありますが、漫画になると読みやすい。業者を出してしまうとベネッセなんかを送ってくる書類で、それは部活も恋も上手くいくというような内容の書類だけ届いて、みんなそれにちょっと入ってみようかなみたいな、漫画だけ読んで捨てる人がほとんどだと思いますが、日常の中で、啓発が強く出ていると中学生はやっぱり反抗してしまう可能性があるのも、ちょっと日常生活にあわせて何かキャラクターということというのは、漫画とかがもしかしたら彼らにとって入り込みやすいツールとは思いますが。</p>
コーディネーター	<p>若年世代をターゲットとした案がいろいろ出ましたけれども、ここについてまたあとで思いつきというか、アイデアがあればまた発言していただきたいです。ここの2番目の指摘にもありましたけれども、今まで交通安全指導員が頑張っているところと出向いて行って、教室を行ったりということをしてたわけですけども、ちょっと多様化させるといって、啓発の方法を多様化させるといって、たくさん出していただいたんですけど、そういう方法というのは、道路管理課としてもいいですか。</p>

発言者	発言内容等
市職員	<p>いろいろとご意見をいただいた中で、人を増やすだけが啓発事業ではありません。市民を守っていくという立場からすると、先ほど、自治会の中に何か取り組んでいくと。ほとんどの川西市内、コミュニティとあわせて、地域の中で交通部会等もあります。そこを活用させていくような方法で、何とか考えていきたいというように思っています。</p>
メンバー	<p>自治会を活用いただくということに対して、例えば、私のところですけど、日生的場合は、ほとんど坂ばかりで自転車に乗る機会がありません。ですから、そういう意味で能勢口周辺は平地ですから、そこでの指導ということはあると思います。実際にニュータウンであんまり中学生が自転車に乗っているところを見たことがないです。歩道と車道は分離されているから、乗ろうと思ったら乗れますけど、坂がひどいところですから、そういうところの特性も含めて、地域ごとに指導方法を考えないと思います。ただ、先ほど出ている中学生は、反抗期と言いますか、大人が言っても言い方ひとつによってはプラスにならずにマイナスになってという面があるので、よほど訓練をされた人が指導をして説明しないと、反発だけで効果がないというのも十分考えられると思います。自治会で取り組みと言っても、自治会でそんな訓練を受けた人が役をやっているわけではないと思うので、その辺は今後そういう指導する人の指導も含めてご検討いただきたいと思います。</p>
市職員	<p>ちょっと言葉は足らなかったですが、学校関係、小学校、幼稚園については、川西警察署の指導員と同行していただき正しいルールを教えていただく形になります。自治会については、交通安全啓発ですからすべての乗り物、それから歩行について検討していく必要があると改めて思っています。だから、地域によって自転車に乗る、乗らないというところもあるかとは思いますが、それは自治会と相談した内容によって、それは変化を求めるものだと思っています。</p>
コーディネーター	<p>特に意見がなければ、私のほうからちょっと質問というか、問いかけをさせていただきます。今、地域特性によって危険性とか、主な交通手段というのは変わってくるという指摘がありましたけども、地域によって危険個所みたいなものがあるわけです。ここに事故が多発しているとか、自転車に乗る人が多い、自転車のマナー重点ポイントだとか、何かそういう地域ごとの分析と言いますか、交通安全を啓発する上で、どういうところに重点的に働きかけていくべきか、どういう内容の啓発、あるいは講習なんかをしていけばいいかというような分析をされていますか。</p>
市職員	<p>交通安全啓発に取り組んでおりますので、カーブの部分で言いましたら、カーブミラーであったり、防護柵であったり、そういうようなところでもやっています。ここの箇所、ピンポイントではないんですけど、この辺のところちょっと危ないと、実際に事故があれば川西警察のほうも把握しますし、事故検証というのも行います。それは道路管理課も含めて、事故があったところについては、何が問題だったのかということを検証して、事故の要因をなくすようなそういう方策を考えます。まだ、事故に至らないところであっても、市民の方から「ここは危ない」という情報は、道路管理課のほうに多く寄せられておりますので、注意喚起の看板であったり、そういうものをつくっていったりはしています。啓発部分については通られる車であったり、人であったり、自転車であったり、直接街頭で指導するということは今のところはやっていません。そういうことで、ハード面ではありますが、そういう活動をしているということで、理解いただきたいと思います。</p>
市職員	<p>補足させていただきます。自転車については、川西警察署と街頭指導ということで、能勢口近辺の大きな交差点でちらしを配付し、自転車の指導をさせていただいています。</p>
コーディネーター	<p>そういうことも自治会のほうとぜひ可能な範囲で情報の共有をするであるとか、情報</p>

発言者	発言内容等
	<p>を上手く行き帰りも使ってもらい、ただ一般的に助けましょうということだけではなくて、実際に危険があるというのを、数字の上でも具体例でもいいですけども、感じてもらうのもいいというふうに思います。</p> <p>ほかに何かありますか。ちょっとだけ整理すると、中学生の啓発というところはいろいろご意見も出ました。ただ、成人の交通マナーというところは、自治会への働きかけというところに少しお話が出ましたが、ちょっと市として難しいというお言葉もあったように思うのですが、これはどうして難しいのですか。</p>
市職員	<p>市役所に、「ルールを守ってください」とは言いますが、それを取り締まる権限がありません。そういうところがちょっと難しいかなというところで、それにあわせて川西警察署のほうと同行できるような状況があれば、それはすべてそちらのほうでいろいろとお話をいただけるかなと思っています。</p>
コーディネーター	<p>成人への働きかけというのは、主に警察で行っている。</p>
市職員	<p>主にといいますか、運転のときは更新のときしかないと思います。それと高齢者でしたら適正検査、それ以外に所轄のほうは出て行っているのは、春と秋の交通安全週間のときに話をされるということになると思います。</p>
コーディネーター	<p>先ほど、こういうイベントをもちろん成人というか、自動車運転される方も一緒にというふうなお話もありましたが、そこは市としてもう少しやっぱり加害者になりやすいのは車を運転する人であるとか、数からいっても成人のところが多いと思いますが、そこにちょっと力を注いでいくというか、新しくということは、考えないですか。</p>
市職員	<p>成人の対象ということも、高齢者も含めて成人という考え方をしますと、どうしても誤作動、間違っただけでアクセル、ブレーキを踏むとか、標識の理解が忘れていたということと、それから歩行中、自転車の接触とかということもあります。今は運転免許証を持っている、持っていない、持っていなければまた1からという話になりますし、持っておられる方との差が大きな話があるとは思っています。今、川西警察署が特に力を入れているのは、高齢者になります。市内での死亡事故でほとんどの場合が高齢者ということになっております。そこをターゲットにして指導に力を入れておられるように感じています。</p>
コーディネーター	<p>そこは何か具体的なアイデアとか、そういうことまではいってないということですか。</p>
市職員	<p>そこまでは、ちょっと免許のある方については、そういった手段があるのですが、免許のない方をどういった形で集まっていたか、アピールをしていくかというのは、アプローチの問題があると思います。</p>
コーディネーター	<p>成人の中でも免許を持っている人は免許更新とか、春・秋の交通安全週間も、それも免許ない人でも多分あるかと思いますが、直接的に何かアプローチをするということは、今はちょっとないという状態だというわけです。</p>
市職員	<p>今ちょっと資料をつくっていただきましたが、説明をお願いします。</p> <p>そうしましたら、上から高齢者、子供、自転車、自動2輪、原付ということで、10ページになっています。簡単に特徴だけ説明させていただくと、最初2枚高齢者になっており、高齢者の死者数、傷者数、けがをされた方と分けています。</p> <p>1ページで、川西市の高齢者の人口が3万9,000から4万4,000ということで、年を追うごとに増えている状況になっています。川西市の死者数は青色の棒グラフになっていて、そのうち赤い棒グラフのほうが高齢者の死者数になっています。高齢者の人口の増加に伴って死者のほうは横ばい、もしくは25年度はゼロということになっています。高齢者の交通安全教室が回数の方を増やしていますので、そのあたりは一定効果が出ているのかもしれませんが、傷者数に関しては、横ばい程度になっていま</p>



発言者	発言内容等
	<p>す。</p> <p>次は子どもです。子どもについては、同じように3ページで、子供の人口は減少しています。川西市は死者数に対して、子供の割合というのはほとんどなくて、21年、24年にお1人ずつお亡くなりになられているだけで、あとは死者のほうは出ていません。</p> <p>4ページを見ますと、傷者数でグラフを見ていただくと、徐々にではありますが、当初21年に86名の方がけがされているところが、25年には70名になっていまして、人口の減少に伴っている分と啓発事業の分と両方がこういう形で数字に出ているというふうに思っています。</p> <p>あと、5ページにいきまして、自転車のほうはかなり言われていますが、川西市のほうでは自転車の死亡事故はありません。6ページの自転車の事故のけがをされた数ですけども、兵庫県内のけがをされた方の中で、自転車の割合は19%前後の割合になっています。川西市のほうは15%から16%程度で、数字のほうも21年に比べましたら減少していますので、このあたりも増えているということではありません。</p> <p>ただ、警察のほうは、一定事故の件数での自転車事故の割合というのが多少増えているようで、警察はそういう割合を見て、自転車の啓発に力を入れておられるということで聞いています。</p> <p>あとは自動2輪ですけども、自動2輪はこちら原付を含んでいますので、7ページ、8ページ、あと9ページ、10ページあわせてご説明させていただきます。自動2輪については、死者のほうも川西市内は21年で2件だったのに対して、あとはゼロ件から1件ということになっています。保有台数のほうが、2輪車全体で言いましたら、世の中の情勢なのかわかりませんが、保有台数は増えているようです。それに対して、死者数が出ていないということは、幸い啓発などの効果も出ていると思っています。</p> <p>ただ、9ページで、原付の事故に関しまして、原付の保有台数は2輪車に対して保有台数は減っています。これは川西署管内になっていまして、川西市、猪名川町、両方での件数になっていますが、起伏の激しい場所が多いということもあるのかもしれませんが、原付の事故が県内に比べたら多いように思います。わかりますのが10ページのところで、原付事故のけがをされている数ですが、県内の原付事故の割合は12%、13%程度になっていますけど、川西市警察署管内のところを見ますと、けがした割合に対する原付のけがした方の割合というのが、15%前後になっているのがわかるように、多少ちょっと原付のけがをされている方が多いのか、事故が多いのかなというふうに見ています。</p>
コーディネーター	<p>今の説明によれば、原付事故についてはやや多めだということです。あとはそれほど目立って問題になっているということはないという認識かなとは思いましたけれども、いかがでしょうか。</p>
メンバー	<p>この資料を拝見しますと、自転車の死者、傷病、傷害ですか、これは本人、自損、いわゆる加害者としてではなく、自転車に乗って自分がけがをした、もしくは何件か死亡という形ですか。加害行為による死者というのもここには入っているのでしょうか。</p>
市職員	<p>自転車事故に関しまして、例えば車両、車と自転車とかという形になりますが、自転車がぶつかってその方が亡くなったという数字は入っていません。</p>
メンバー	<p>この資料で拝見していると、相当努力というか、啓発の成果が私は出ているというふうに拝見をしました。戻りますけども、中学生等のいわゆる免許云々の年に達してない人への啓蒙という意味では、件数から言ったらそんなにないと思います。万が一、自転車が人をはねるとか、いわゆるルール違反をしてけがをさせたときの補償というものを含めたいいわゆるリスクを数字的に1年か2年前、小学校の5年生の子どもがお年寄りを</p>

発言者	発言内容等
	<p>はねて何百万か何千万の補償とか、こういう滅多にはないけれども、起きえるようなこともぜひ啓発資料の中には入れていただいたらいいじゃないかと。私ごとで恐縮ですけど、過去に自転車で亡くなられた方が通勤の帰りで、通勤途上の災害として、お手伝いしたことがあります。勤めていた会社から労基署に申請をしましたが却下されて、知り合いだったので、相談に来られ、いろんな資料を揃えて出したら労災が認められたというケースもあります。そのときはマウンテンバイクにはねられたので、亡くなられました。ですから、滅多にはないけども、たまに大きな保障で、自動車のような賠償責任に入っているわけじゃありませんから、全部加害者が1から10まで負担をしないといけない。たまたま労災で、遺族の方も救済されていますけども、加害者には返済能力がありませんでした。ですから、そういう危険を伴う自転車の事故というのは、ぜひ啓蒙することによって防げると、脅して従わせるといような形にはなりますけど、そういうのも必要と思いました。</p>
<p>コーディネーター 市職員</p>	<p>その辺りは何か取り組みをされていますか。</p> <p>特に、高校生に対して、勉強会のときに出した資料の中で、ちらしの配布を説明させていただいていると思います。そのちらしの裏に自転車事故というのは、「こういうような大きな事故に、自転車は普段こういう大きな事故につながる可能性があります」といようなことを、ちらしの中でアピールさせていただいています。これは具体的にはこういうこともあり得るので、出会い頭ということで、当然、気をつけていただかないといけないということであるんでしょうけども、事故というのはなかなか防げない事故があるでしょうから、内容としては「こういう事故があります」ということとあわせて、保険加入のおすすめをするといような内容にして、「こういうような事例があります」といことのアピールはさせていただいています。</p>
<p>コーディネーター 市職員</p>	<p>自転車損害賠償保険の加入率とかというのはわかりますか。</p> <p>強制保険ではありませんので、あくまで任意保険ですから、加入率については、把握はしていません。</p>
<p>コーディネーター 市職員</p>	<p>大体のおおよそで、もっと増やすのか、それともかなり浸透してきたと見ていいのか。</p> <p>先ほど、説明しましたように、民間の生命保険にもありますし、自転車を買ったところにも保険が入れるといところで、それをすべて把握はできませんでしたので、今みたいなお話をさせていただきました。</p>
<p>コーディネーター</p>	<p>私のころは自転車に乗るには保険に入らないといけないとい認識はなかったです。最近では、コンビニでも加入できるようになり、かなり保険に入るとい手続きをとおして、「自転車は結構危険なもの」とい認識も多分高まるのではないかと思います。</p>
<p>オブザーバー</p>	<p>私も数については確認してないですけど、親が自動車保険に入るときにあわせて、子どもの自転車保険を言う、そういうおすすめをよく見えています。恐らく、今、先生が言われるように、子どもが敢えて自分が乗る自転車に保険を掛けるといことは恐らくしないのではないかと。多分、親は子どもが乗っている自転車について、委員の中からも出ているようないわゆる加害者になったときに「どうするんだ」といようなところのリスクがあるので、親が保険を掛ける。それも自転車を買ったときに掛けるといのが一番いいんでしょうけれど、既にある自転車についても、どの家庭でも最近は車の保有率が高いので、車の保険を掛けるときにあわせて「自転車もどうですか」といようなお勧めはよくあります。質問ですが、子どもといのは、何歳までかといのはわかりますか。</p>
<p>市職員 メンバー</p>	<p>子どもについては、中学生以下を対象にしたケースになっています。</p> <p>私が申し上げたいのは、保険に入って保障云々といよりも、どっちかといと、親</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター	<p>が管理責任を問われる。子どもに対して乗るときの注意をより徹底するのが交通事故、自転車事故の防止につながるんじゃないか。だから、あつてからの保険というのは確かに必要かもしれませんが、神戸で親の管理責任を問われて裁判が出ているわけですから、そこら辺を日々、子どもさんに対して自転車に乗るときはこうなさい、あしなさいと言う注意というのが、事故防止につながり、交通安全の1つの成果になるのではないかと思います。</p> <p>高校生の啓発をされているということなのですが、子どもたちだけ、生徒だけではなくて、親にもということですね。</p>
メンバー	<p>私が高校のときにもこのちらしがあったと思います。案外こういうちらしを配られたということよりか、毎日、教員から注意を受けたとか、PTAの方から注意されたとかのほう結構覚えているので、案外そういうちらしを配って安心するのではなくて、しっかり生活面から毎日注意を促せるようなことをしたほうがやっぱりいいのではないかと思います。大学では、生活指導とかはないので、高校はある意味で、生活指導ができる最後の教育機関だと思うので、そういうところもしっかりしたほうがいいのではないかと思います。</p>
市職員	<p>親に対する自転車保険の関係ですけど、唯一、親に接するのが幼児教育、安全クラブでのお手元に配布している「うさちゃん便り」の中で、自転車保険なども書かしてもらっています。そういうところで、確かにこういうことになると子どももかわいそうですけど、親がこういう責任を負いますとか、最近でしたら兵庫県警が自転車で事故しても自動車の免停になりますとか、そういうことはできるだけ伝えていき、要は危険性というところを伝えていくのも私どもの責任というふうには考えています。</p> <p>あと、もう1点、先ほど言っていた高校生ですけども、学校のほうもいろいろ取り組んでいただき、自転車のほうは許可制度になっているかと思いますので、高校生で、自転車で通う方に対しては、必ず自転車保険入るように義務にしている学校も川西市内にあります。全校ではありませんが、そういう形にしているのと、あと自転車事故が多い高校については、朝も夕方先生が歩道に立たれて、危ない箇所のところに立つ指導が一番高校生にとっては効果があるといいますが、そういう取り組みもしていただいています。</p>
コーディネーター	<p>自転車の件で、一通りやっているところもあるというか、取り組んでいるところもあるという話でした。今日は1回目なので、一応論点というか、どの辺が課題になっている、どんな解決の方向性があるのかというのが当たりを付けるということができればなと思いますので、ほかにちょっとここは考えといたほうがいいんじゃないかという論点があれば出していただけたらと思います。新しい危険な態度として歩きスマホなどというところも少し話題として出ましたが、こんな面でどうですかということがあれば。</p>
メンバー	<p>交通安全指導員に関して、今なされているのは交通安全協会の方であったり、道路管理課の方であったり、嘱託職員の方であったりとかがされているということだったと思います。例えば、いろいろな場所で交通安全教室をしてもらうために、市民から公募を募って免許じゃないですけども、その方たちにまとめて講習会みたいな、安全啓発の授業じゃないですけど、講座をしてくださいというようなものを開いて、その方たちに、「ここに行ってお話をしてください」と必要な資料であったりとか、そういったものは道路管理課であったりとか、安全協会のほうがすべてサポートをするというような形で、市民を巻き込んだ形でされるのも1ついいのではないかと思います。私はちょっと働くお母さんたちという形で、全国で会社展開されているところがあるんですけども、そこが「親子自転車プロジェクト」という形で、全国のママさんに指導員になってもらい講</p>

発言者	発言内容等
	<p>座を全国で開いて、指導員になった、免許制みたいな形で、指導員の方たちが、各公民館であったりとか、自身がされているサークルであったりとか、そういうところで、親子三人乗り自転車の危険性であったりとか、自分たちの世代のところ、そのものに関してはそこだけのカバーにはなるのですけれども、同じ目線で話をしてみんなに広げていくという形をしています。中学生は大人が言うとなかなかというところもありますが、中学生の中でももしかしたら興味を持ってきて、指導員になってくれる子がいるかもしれないので、年齢制限をつくらずにそういうやってみたい、話してみたい、自分が前に出てみんなに話したいというような人を募ってされるのも1つアイデアではないかと思えます。</p>
コーディネーター	<p>このあたりはいかがですか。うさちゃんクラブというのも1つと思えますけども。もう少し幅広く中学生であるとか、高齢者の方も含めて、そういった振興みたいな形で、指導員の裾野を広げるみたいな。</p>
メンバー	<p>組織をつくって教育してしまうと、ちょうど今の認知症のキャラバン・メイトという、組織として研修をしてという相当しっかりしたものを、つくりたくないとなかなか片手間でできる、やっぱり人にもものを教えるというあれは大変だと思いますし、多分中学生ぐらいだと我々が言っても「何をおっさん言っている」というような感じで、「ああ、なるほどな」と聞いてもらえるというよりはトラブルになる可能性のほうが、強いと思います。やっぱりそれなりにしっかりとした組織で教育をした人が、訓練を受けた人が指導員にならないと、生易しくできないと思います。</p>
コーディネーター オブザーバー	<p>何かご質問があれば。 今、言われたように、指導員という資格を持った方が、必要と。多分、言われているのは、そこまでいなくても多分市民レベルでNPOなんかがよくやられているようなそういった形がある。</p>
メンバー	<p>それと、例えば漫画を使って中学生にアピールするときに、NPOの中で、漫画が上手で、また中学生の子どもをお持ちの親子が、その中学生はどんなことにやったら興味を覚えるかというような、策はその中学生にお願いして、お母さんにその中学生本人でもいいですけど、そういう漫画をつくって、その対象の中学生にアピールをしていく、そんなような取り組みから始めてもいいかなというふうに思いました。</p>
メンバー	<p>きんたくんが、かなり浸透してきていると思っています。せっかくなので、きんたくん自身を交通安全指導員になってもらうとか、あるいはうさちゃんクラブをきんたくんクラブに名称を変更してもいいじゃないかなというふうに思います。</p>
コーディネーター	<p>今の話はちょっと大事というか、この啓発というのは裾野を広げていく上で大事なところだと思いますけど、啓発として取り締まりみたいなものがあると、法律に基づいて厳しくやる。それよりも少し緩く、そして広くやるものとして交通指導員の方の講習みたいなものですか。それがその下にうさちゃんクラブとか自治会でも講習とか、あるいは高校、学校とか、何かちょっと階層というか、一番上はもちろん厳しい法律的なものを出し、もう少し下がってくるとちょっと楽しみも取り入れながら、これはイベントでの啓発とか、体験とか、シミュレーターを使った体験とかという話もありました。また、漫画を取り入れてとか、そこに子どもたちもこういうのをつくるところでアイデアをもらうところに参加してもらうとか、そんなこともあるでしょう。一番下になるかわからないですけど、キャラクターの活用とか、より多くに広く働きかけるようなものが必要でしょうし、何かちょっとターゲットとその対象の幅広さと、その内容の濃さ、あるいはそのかけるコストとか、そういったところをどういう戦略というか、ちょっと整理するといいいのかというふうに思いました。雑談で申しわけないですけども、啓発と</p>

発言者	発言内容等
市職員	<p>いいますと、どうしてもふんわり、何となく何を相手に頑張っているのかわからないようなところも出てきてしまうので、ちょっと事業の整理というか、この事業の目的と対象とそのやり方というところを一たん整理する必要があるというふうに思いました。今の話でも結構ですし、また新しい課題とか、ここをちょっと注意しといたほうがいいのかというようなことがあれば。</p>
市職員	<p>先ほどの件で、確かに書いていただいているように、取り締まりのところを私もかかわってわかりましたけど、指導員あるいはちらしをつくるとか、自転車の啓発、指導もやはり警察の方が立ち会えないと指導したらだめだということで、指導員単独でいけない関係があり、そういう意味では、思っている以上に、川西警察の連携というか、そこを超えて行くことができません。ただ言われているように、指導員が先生を相手に教え方とか、そういう講座をして、それを学校、幼稚園で子どもたちに教えていただくというような形もしています。地域でそういう方がおられ、学校に1回説明することによって、その先生方が生徒に教えてもらうというような方法は有効というふうには思います。</p>
コーディネーター	<p>確かに、この一番上のところは経験があると思うのですが、教えあうことによって何か広げていくというのは、さきほどの発言の趣旨と思います。そういうところを何かコミュニケーションが生まれるような、事業のつくり方みたいなものを考えたほうがいいのかもしいです。</p>
メンバー	<p>図式を書いていただいた中で、一番底辺の部分で、子ども、中学生ぐらいまで、楽しみながら自転車に乗って、そこで間違っているところは指導を受けてというような設備、施設があれば子どもたちは上から目線ではなく、楽しみながら且つルールが学べる。川西市にはそういう自転車のできる設備というのはないです。私が知っているのは、福井のほうで、今は何か潰したみたいですが、交通公園という道路とか、踏切を学んでいたようです。そういうのがあると子どもたちが本当に日常的に楽しみながら学べると思います。たまたまハザードマップで、川西市の地図が載っているの、始まる前にちょっと見ていました。どこかそういうところがないかと思い、そうしましたら一の鳥居で造成を中断しており、そこを使えたらと思ひまして。</p>
コーディネーター	<p>ハザードマップというのは。</p>
メンバー	<p>防災のハザードマップです。たまたま川西市の地図が全部出ているので、いつも持ち歩いています。</p>
コーディネーター	<p>これは交通安全の危険箇所とかは入ってないですか。</p>
メンバー	<p>崖崩れとか、雨とかのときのマップであって、交通事故に対するマップではないです。</p>
コーディネーター	<p>交通事故版のマップなんかもあったらいいじゃないかと思ひます。そんな取り組みをされているところもあるように聞いています。</p>
オブザーバー	<p>恐らく地域ではあるかと思ひます。地域の自治会単位とか、コミュニティ単位で、よく事故の起きるところについては、自分たちで実際に地域を歩いた中で、「いつもここ事故多い」とか、違法駐車があるので、「子どもがこの壁になって危ない」というようなところを地域単位でタウンウォッチングをしたあとに少し地図に落とされているような活動されているところはあるかと思ひます。</p>
コーディネーター	<p>私もそういうイメージです。そのあたりもまた地域分権の進めていく中でということだと思ひます。地域の中でどう取り組んでいくかということも見据えて考えていったほうがいいのかと思ひます。</p>
メンバー	<p>先ほど、交通公園的なものがあるという話で、尼崎に今はもう名前が変わってしまっ、信号は動いてないですけど、交通公園があります。伊丹市在住の友人に聞くと、小学校、中学校のときは毎年そこに行って、模擬をするような社会見学的な授業を自分たちの先</p>

発言者	発言内容等
市職員	<p>生と、警察の方も来られていたと言っていました。私は大阪府だったので、そのようなところには行ったことはなかったです。信号が使えないというところはあるんですが、そういった場所を学校と連動して、何か利用して、学校単位で何かをしてもらうというのも1つではないかと思います。</p> <p>第1回の説明のときに差し上げたときに、「うさちゃんクラブ」の活動で、模擬的な信号、横断歩道、それから子どもたちに通ってもらう、止まってもらうことを川西警察署の指導員に入っていたら、あと小さな劇を見せて、その後、父兄に対して「こういったことは危ないです」というちらしをお渡ししている現状がありますが、1カ所に固定してというのは、現在ないです。</p>
オブザーバー	<p>ちょっと補足をさせていただくと、伊丹市、尼崎市は割とコンパクトな地域で、平地で結構固まっているので、1カ所に集まることは可能ですけど、川西市は南北に長いので、1カ所に集まるのは非常にむずかしいと思います。今、申しましたように、私も小さいときに、小学校単位で学校の校庭に模擬の信号とか、白線で道路を書いて、そのとき自転車もあわせて自転車の乗り方みたいところから含めて、交通ルールみたいなのを学んだような気がしています。</p>
コーディネーター 市職員	<p>そういうことは、全面的ではないけど、取り組んでおられるという認識ですか。</p> <p>全面という意味はちょっとわからないですが、「うさちゃんクラブ」で行った場所については、すべてそういうことも含めてやっているという実体です。</p>
コーディネーター	<p>そろそろ時間も終わりになってきましたので、ちょっと振り返りということだけしたいと思います。交通事故を減らす啓発のあり方等ということで、道路管理課のほうから中学生への啓発、それから今の交通安全指導員の体制をもうちょっと増やしたいという問題提議があったわけですけども、中学生の啓発については様々な機会を使うとかが、漫画とか、動画を使うとか、中学生に馴染みのあるやり方というのを提案いただきました。</p> <p>それから、そこともちょっとかわかりますけども、交通安全指導員の活動を増やすということだったのですが、もう少し多様化させるということも含めて、日常生活に入り込んでいくような形で、地域との連携であるとか、学校との連携というのをもっと深めて、啓発方法をいろいろ考えたほうがいいのではないかと。市民公募なんかもまた考えていったらどうかというような話が出たと思います。また、配っていただいたデータに、高齢者の割合というのが非常に高くなっているということで、その割には今のところ事故というのは、死亡事故とか、死傷者が出るような事故というのは目立って多いということではないですけども、これから高齢者が増えていくということもありますので、もちろん若い人も大事ですけども、これからのことを見据えて、ちょっと高齢者対策というのにも必要という感じはしているということです。今のところ啓発の成果が出ているということですけども、予防的な意味も含めて、次回ちょっと念頭に置いて議論できればと思います。</p> <p>あと、自転車のことも話題が出ました。保険への加入とか、意識づけというところを親も含めてやるということで、ここを少しやっているところもあるけれども、広げていくといったところなんです。地域ごとの危険場所の確認であるとか、マップ化して地域で使うというようなことも出ましたので、安全啓発と言ってもいろんなアプローチ、いろんな働きかけの対象があるということなので、それをちょっと一度整理してみて、どこが一番足りないのかとか、どこがもっと広げていく、強化していくところなのかというのをまた次回に向けて、整理した上で、2回目にはじゃあ具体的にどんなことならできそうなのか、それを一体誰がやるのかといったところを議論するというところでよろしいで</p>

発言者	発言内容等
	<p>すか。</p> <p>また、こんなデータが欲しいとか、こんなことを知りたい、議論をする上で、必要な情報とかあれば事務局のほうにお伝えいただければ次回までに検討していただければと思いますので、よろしくお伝えください。</p> <p>これで終了したいと思います。お疲れ様でした。</p>